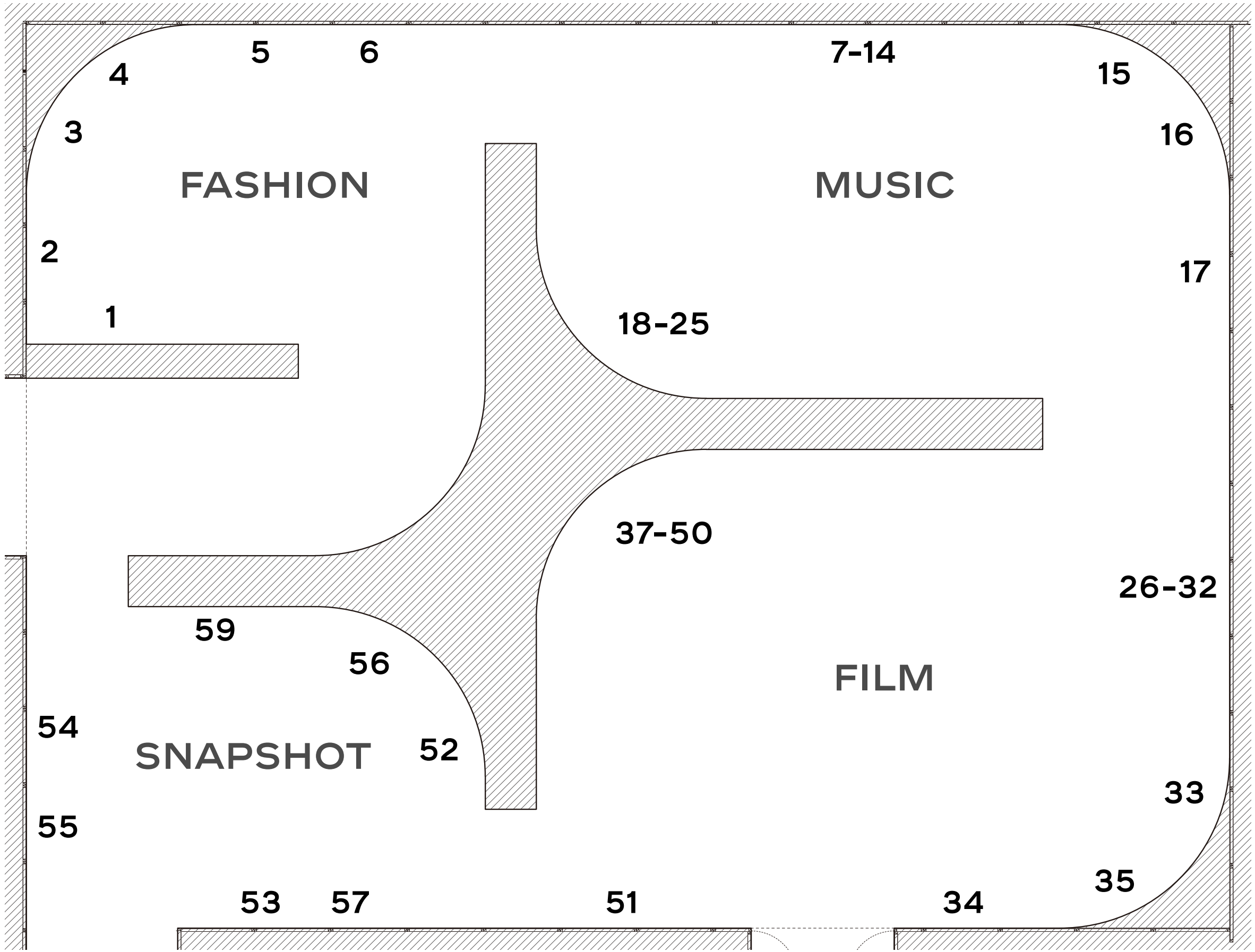


ICONS AND IMAGE MAKERS:

PHOTOGRAPHS FROM THE NATIONAL PORTRAIT GALLERY



CHANEL
NEXUS HALL

1

ツイッギー (レスリー ローソン) (1949-)

撮影 ロナルドトレーガー
cibachrome print, 1967

英『Daily Express』紙が、ツイッギーことレスリー ローソンを「1966年の顔」に選出すると、彼女は瞬く間に世界初のスーパーモデルの一人となった。大胆なアイメイク、中性的な体型、ショートヘアで、ツイッギーは1960年代を象徴する存在となり、多くの若者に影響を与えた。ロナルドトレーガーは、ツイッギーをたびたび撮影している。この肖像は、撮影されたカットの中からツイッギー自身が選んだお気に入りの一枚である。短く刈り込まれた髪が、しっかりと書き込まれたまつ毛とそばかすを際立たせている。

2

ジーン シュリンプトン (1942-)

撮影 デヴィッド ベイリー
gelatin silver print, 1963

ジーン シュリンプトンと写真家デヴィッド ベイリーが初めて出会ったのは、ケロッグ コーンフレークの撮影であった。これを機に、二人は1960年代に協働を重ね、ドラマティックな照明、構図、ポーズを通してファッション写真を再定義した。本作はベイリーのスタジオで撮影されたもので、別のカットが『Queen』誌に掲載された。ダイヤモンド風のブローチをあしらった、エレガントなドレスをまとった彼女のポーズは、細長い椅子が描く優美な曲線と響き合っている。

3

イマン (イマン モハメド アブドゥルマジド) (1955-)

撮影 ジョン スワネル
inkjet print, 1984

1970年代にモデルとしてデビューしたイマンは、一流の写真家たちと数々の創造的な作品を生み出し、高く評価されてきた。ジョン スワネルは本作で、彼女の躍動感を鮮やかに捉えている。鋭角的なポーズはブラインドの水平線と呼応し、1980年代のファッション写真に見られる大胆な視覚表現を反映したグラフィカルな構図を生み出している。

Given by John Swannell, 2011

4

ケイト モス(1974-)

撮影 コリーヌ デイ

inkjet print, 1990

若き日のケイト モスを捉えたこのポートレートは、コリーヌ デイが『The Face』誌のために手がけた一枚。気取らず、素顔を感じさせるそのスタイルは、1980年代のファッション写真に見られた洗練された華やかさと一線を画し、二人のキャリアを飛躍させる契機となった。『The Face』誌のアートディレクター、フィル ビッカーは、「ケイトの個性とポジティブなエネルギーが伝わってきて、スタイリングされたファッション写真であることを忘れてしまうほどだった」と振り返っている。

Given by Corinne Day Estate, 2025

5

ナオミ キャンベル(1970-)

撮影 サイモン フレデリック

inkjet print, 2016

1980年代から90年代にかけて最も活躍したモデルの一人、ナオミ キャンベルは、これまでに500誌以上の雑誌の表紙を飾ってきた。1989年には、黒人モデルとして初めて米国版『Vogue』誌9月号の表紙に起用され、今日に至るまでファッション界におけるさらなる多様性の実現を積極的に訴えている。本作は、影響力のある英国の黒人たちを讃えるサイモンフレデリックのシリーズの一作で、クローズアップされたその姿は、ファッションという文脈から離れ、彼女自身に焦点を当て、その個性と功績を際立たせている。

Given by Simon Frederick with support from Oath, 2017

6

デュア リパ(1995-)

撮影 ナディーン イジェウェレ

inkjet print, 2018

「New Rules」(2017年)で一躍注目を集め、ベストセラーとなったポップアルバム『Future Nostalgia』(2020年)でその地位を確立したデュア リパ。イングランド南部、ケント州の白い断崖を背景に撮影された本作では、リズミカルに手を叩く仕草が、画面に動きと音楽的な躍動感をもたらしている。このポートレートの別カットは、2019年の英国版『Vogue』誌の表紙を飾り、ナディーン イジェウェレは、同誌125年の歴史で初めて表紙を撮影した有色人種の女性写真家となった。

7

ザ ビートルズ

撮影 ロバート ウィテカー

gelatin silver print, 1964

1960年、リヴァプールで結成されたザビートルズは、このポートレートが撮影された頃には、「ビートルマニア」と呼ばれる熱狂的な人気に後押しされ、世界的なスターとなっていた。ロバート ウィテカーは、彼らが急速にスターダムへと駆け上がる時期を撮影している。ツアー中の彼らや制作現場、舞台裏への特別なアクセスを許可され、数々の象徴的な写真を残している。本作は、スコットランドでのツアー中に撮影されたものである。

8

ヨーコ オノ(1933-)、ジョン レノン(1940-1980)

撮影 アニー リーボヴィッツ

chromogenic print, 1980

ジョン レノンとヨーコ オノは1969年に結婚。彼らは当時、最も注目を集めたカップルの一組だった。アニー リーボヴィッツがマンハッタンの二人のアパートで撮影したこの著名な写真は、単なる恋人同士の姿を超えたものを感じさせる。ヨーコの頬にそっと口づけるレノンの裸体と、胎児のように身を丸めた無防備な姿が、作品に深い哀切を与えている。撮影からわずか5時間後、レノンはファンによって銃撃され、命を落とした。

Given by the photographer, Annie Leibovitz, 1995

9

ミック ジャガー(1943-)

撮影 アニー リーボヴィッツ

gelatin silver print, 1975

ミック ジャガーはローリング ストーンズのフロントマンとして、挑発的で華やかなステージパフォーマンスで知られる。しかしこの写真では、バスローブをまといエレベーターに立つ静かな表情の彼を捉えている。1975年、バンドの公式カメラマンとしてツアーに同行していたアニー リーボヴィッツが撮影したもので、本作は、彼女がロックンロールの現場の記録写真から、演出性の高いセブリティポートレートへと表現の幅を広げていく転機を示している。

Given by the photographer, Annie Leibovitz, 1995

10

ジミ ヘンドリックス (1942-1970)

撮影 ゲレッド マンコヴィッツ
gelatin silver print, 1967,

シアトル生まれのジミ ヘンドリックスは、1960年代を代表する最も影響力のあるギタリストの一人である。1966年にロンドンへ移住後、ザ ジミ ヘンドリックス エクスペリエンスを結成。デビューシングル「Hey Joe」(1967年)のヒットで注目を集めた彼は、ダンディな装いと自由奔放なギター演奏によって、1960年代の社会的解放を象徴する存在となった。ゲレッド マンコヴィッツは、ウエストエンドにあった自身のスタジオで、このポートレート撮影している。飾らない率直なアプローチは、ロックンロールの視覚表現を形づくる一助となった。

11

デヴィッド ボウイ (1947-2016)

撮影 テリー オニール
gelatin silver print, 1974

デヴィッド ボウイは、アイデンティティ、イメージ、サウンドに対する実験的なアプローチを切りひらいた。アルバム『Diamond Dogs』のために制作されたこのポートレートは、グラムロックを基盤としながら、より多彩な音楽的影響へと向かう転換期のボウイを捉えている。テリー オニールによれば、ボウイが撮影に連れてきた大きな犬は、スタジオのフラッシュがたかれるたびに、制御できないほど吠え続けたという。ボウイの動じることのない落ち着きは、鮮烈な対比のある一枚を生み出し、変幻自在な表現力をもつボウイらしさを映し出している。
Given by Terry O'Neill, 2003

12

ケイト ブッシュ (1958-)

撮影 ゲレッド マンコヴィッツ
inkjet print, 1978

エミリー ブロンテの同名小説に着想を得たケイト ブッシュのデビューシングル「嵐が丘」(1978年)は、彼女がわずか19歳のときに発表された。これは、女性が作詞、作曲、歌唱を手がけた楽曲として初めて全英シングルチャート1位を獲得した作品である。「Running up that Hill」を収録した『Hounds of Love』(1985年)をはじめとするアルバムは、彼女が長く支持され続ける礎となった。きらめくような柔らかな光に包まれたこのポートレートは、影響力のある音楽写真家ゲレッド マンコヴィッツによるもので、ブッシュの幻想的なイメージと実験的なサウンドを映し出している。

13

グレイス ジョーンズ (1948-)

撮影 ジョン スワネル
inkjet print, 1989

黒いレザーに身を包み、カメラを鋭く見据えるグレイス ジョーンズ。その前衛的で中性的なスタイルは、彼女をアイコンへと押し上げた。ジャマイカ出身のモデル兼シンガーであるジョーンズは、1981年のヒット曲「Pull Up to the Bumper」などで知られ、ファッションと音楽の両分野で先駆的な存在となった。ジョン スワネルは、オリンパス社のカメラの広告のためにこの一枚を撮影した。撮影を振り返り、彼はこう語っている。「金曜日に撮影を予定していたんだけど、彼女が現れたのは日曜日になってからだった。ようやく来てくれた時には、カメラは彼女の魅力を見事に捉えてくれたんだ」

14

トロージャン (1966-1986)、リー バウリー (1961-1994)

撮影 デヴィッド グウィナット
gelatin silver print, 1983

1980年代、パフォーマンスアーティスト兼クラブプロモーターのリー バウリーと、アーティストのトロージャンは、ロンドンのアンダーグラウンドなクラブシーンを象徴する存在となった。二人は自らの身体をキャンバスのように用い、奇抜な装いや演劇的なメイクアップで自己を表現した。本作に見られるトロージャンの「ピカソ」風の顔もその一例である。デヴィッド グウィナットは、クラブの喧騒を離れ、イーストロンドンにある二人のフラットで彼らを撮影した。演出を抑えた親密なポートレートは、二人のプライベートな一面と創造的な世界を写し出している。

15

フレディ マーキュリー (1946-1991)

撮影 ニール プレストン
gelatin silver print, 1986

ロック史に名を刻むヴォーカリストの一人、クイーンのフレディ マーキュリー。本作では、ロンドンのウェンブリースタジアムで行われた公演で、満員の観客を前にステージに立つ姿を捉えている。バンドがオープニング曲を演奏し始めた瞬間を、ニール プレストンが撮影した。スタジアムの弾けるような照明の光と、被写体に迫る構図が、マーキュリーの圧倒的な存在感を際立たせている。プレストンは、「彼は一度もカメラを下ろせとは言わなかった。それどころか、私がいつもそばにいて、すべてを記録していることを楽しんでいるようだった」と振り返っている。

Given by as part of People Powered: Brent, funded by The National Lottery Heritage Fund and Art Fund, The Lightpower Collection, 2021

16

エルトン ジョン(1947-)

撮影 テリー オニール

chromogenic print, 1975

史上最も多くのレコードを売り上げたミュージシャンの一人、エルトン ジョンは、1971年に「Your Song」で初の大ヒットを記録した。華やかなファッションと壮大なライブパフォーマンスで知られる文化的アイコンであり、本作ではロサンゼルス のドジャースタジアムのステージに立つ姿が捉えられている。当時、ポップミュージック史上最大規模とされたコンサートの一場面である。舞台裏を捉えるルポルタージュ写真の先駆者、テリー オニールは、音楽家のポートレートにこれまでにない臨場感と即興性をもたらした。

Given by Terry O'Neill, 2003

17

カイリー ミノーグ(1968-)

撮影 ノーバート ショルナー

inkjet print, 1994

「ポップス界のプリンセス」と呼ばれるカイリー ミノーグは、「I Should Be So Lucky」(1988年)などのヒット曲で英国で大きな成功を収めた。『The Face』誌の依頼で撮影された本作は、キャリアの転換期にあった彼女を捉えている。アビエーターサングラスと堂々としたポーズは、それまでの「隣の家の女の子」のような親しみやすいイメージからの脱却を印象づける。ノーバート ショルナーはこう振り返る。「サングラスのレンズに彼女の姿が映り込むよう、周囲を鏡張りの箱で囲んだ。無数に連なるカイリーを撮ろうとしたんだ」

Given by Norbert Schoerner, 2025

18

リアム ギャラガー(1972-)

撮影 ノーマン ワトソン

inkjet print, 1994

ブリットポップを代表するオアシスは、世界で7,000万枚以上のレコードを売り上げ、音楽的な成功だけでなく、その言動でも常に注目を集めてきた。本作は、デビューアルバム『Definitely Maybe』(1994年)で一躍脚光を浴びる直前、『The Face』誌の依頼で撮影された、リードボーカル、リアム ギャラガーのポートレートである。スポーツウェアやパーカーは後にバンドのトレードマークとなるが、この初期の撮影でノーマンワトソンは、「リアムが60年代のボヘミアンなロンドンに迷い込んだように見せたかった」と語っている。

Given by Norman Watson, 2025

19

スパイス ガールズ
撮影 ハリー ボーデン
inkjet print, 1996

スパイス ガールズは、1990年代を代表する最も影響力のあるポップグループの一つである。本作が撮影された年にリリースされたデビューシングル「Wannabe」は、53ヶ国でチャート1位を獲得し、ザ ビートルズ以来、最も早く成功を収めた新人アーティストへと彼女らを押し上げた。本作では、メンバーそれぞれが優しく触れ合う仕草でつながり、彼女たちの魅力の核となった友情と連帯感を表現している。

20

リリー アレン(1985-)
撮影 ナダフ カンダー
pigment print, 2008

ソーシャルメディアを通じて注目を集めた英国人シンガーソングライターの先駆者の一人、リリーアレン。MySpaceにデモ音源を投稿するとたちまち多くのリスナーを獲得し、ほどなくデビューシングル「Smile」(2006年)が英国のチャートで1位を記録した。写真家ナダフ カンダーは、謎めいた雰囲気と心理的な深みを感じさせるポートレートで知られる。本作では、ミニマルな背景の前に立つアレンを、絵画のような光で捉えている。伝統的な構図と、アレンのトレンド感のあるスタイルとの対比が印象的だ。

Given by Nadav Kander, 2009

21

ブライアン モルコ(1972-)
撮影 スカーレット ペイジ
chromogenic print, 1997

ブライアン モルコは、オルタナティヴロックバンド、プラシーボのボーカル兼ギタリスト。ステファン オルスダルとともに結成したプラシーボは、1996年にデビューアルバムを発表し、その収録曲「Nancy Boy」のヒットで一躍注目を集め、中性的なスタイルと彼の個性的な歌声で知られるようになった。写真家スカーレット ペイジは『Kerrang!』誌のために撮影した本作について「マーケットで手頃な値段の天使の羽を見つけて、ブライアンがその墮天使に命を吹き込んでくれた」と語っている。

22

エイミー ワインハウス(1983-2011)

撮影 ミーシャ リヒター

chromogenic print, 2006

スモーキーなコントラルトの歌声と、率直で私的な思いを綴った歌詞で知られるエイミー ワインハウスは、今なお同世代を代表する個性的な歌手の一人である。依存症との闘いや過熱するメディアの注目にさらされたキャリアの一方で、現代音楽に与えた影響は計り知れない。ミーシャ リヒターは、史上最も売れた英国のアルバムの一つである『Back to Black』(2006年)のために本作を撮影した。写真家の自宅に設けた真っ黒な部屋で、その日の最後に撮影されたこの一枚は、はからずもアルバムタイトルそのものを体現する作品となった。

Given by Mischa Richter, 2007

23

オリヴィア ディーン(1999-)

撮影 タミ アフタブ

inkjet print, 2021

シンガーソングライターのオリヴィア ディーンは、ヒット曲「Adrenaline」(2019年)で広く注目を集めた。ソウルフルな歌声と、愛や政治、家族をテーマに物語を紡ぐ歌詞で人気を高め、2023年にはデビューアルバム『Messy』をリリース。本作は『Porter』誌のために撮影されたもので、タミ アフタブによる大胆なクローズアップと独特のアングルが、ディーンの明るく遊び心のある個性を際立たせている。

Purchased with kind support from CHANEL Culture Fund for 'Reframing Narratives: Women in Portraiture', 2023

24

アデル(1988-)

撮影 アニー リーボヴィッツ

pigment print, 2015

心に響く楽曲と卓越した歌唱力で知られるアデルは、2作目のアルバム『21』(2011年)の大ヒットによって世界的な名声を得た。アニー リーボヴィッツは、英国版『Vogue』誌の表紙のために彼女を撮影した。歴史あるロンドンのホテル、クラリッジズで撮影されたこの写真で、アデルは創り手であると同時に、ミューズとしても表現されている。片手を自然に鍵盤に置き横顔を見せる彼女は、音に耳を傾け、内省しながら楽器と一体となり、創作に没頭しているように見える。

Given by Annie Leibovitz, 2022

25

リトル シムズ(1994-)
撮影 アダマ ジャロウ
gelatin silver print, 2019

ジャンルを横断する音楽性と卓越したリリックで、リトル シムズは現代英国のラップシーンで最も高く評価されるアーティストの一人となった。内省的な歌詞で知られる彼女は、本作で目を閉じ、光に顔を向け、物思いにふけるような姿を見せている。写真家アダマ ジャロウは、現代アフリカのファッション、音楽、アート、社会を称える『Nataal』誌のためにこのポートレートを制作した。
Purchased with kind support from CHANEL Culture Fund for 'Reframing Narratives: Women in Portraiture', 2023

FILM

26

オードリー ヘプバーン(1929-1993)
撮影 セシル ビートン
gelatin silver print, 1963

洗練された優雅なスタイルで知られるオードリー ヘプバーンは、『ローマの休日』（1953年）や『ティファニーで朝食を』（1961年）などで国際的な名声を得た。写真家セシル ビートンは、数々の撮影や称賛に満ちた記事を通して、ヘプバーンの唯一無二の魅力を讃え、1957年には彼女を「新しい女性像を体現する、最も興味深い存在の一人」と評している。また、『マイ フェア レディ』（1964年）ではヘプバーンの衣装もデザインした。
Accepted in lieu of tax by H.M. Government and allocated to the Gallery, 1991

27

アルフレッド ヒッチコック(1899-1980)
撮影 アーヴィング ペン
gelatin silver print, 1947

『裏窓』（1954年）、『北北西に進路を取れ』（1959年）、『サイコ』（1960年）などの作品で「サスペンスの巨匠」と称された映画監督アルフレッド ヒッチコックは、ここでは古びたカーペットの山に座っている。写真家アーヴィング ペンは、被写体の反応を引き出す独創的なスタジオセットをしばしば用いている。抑えた照明は、ヒッチコックのポーズや仕草の細部を浮かび上がらせ、その内面をほのめかしている。ペンは米国版『Vogue』誌の撮影において、被写体の公の場で見せる仮面がふと外れる瞬間を捉えようとした。

28

エリザベス テイラー (1932-2011)

撮影 ノーマン パーキンソン
chromogenic print, 1953

ハリウッドを代表する伝説的なスター、エリザベス テイラーは、60年にわたるキャリアを通じて観客を魅了した。『クレオパトラ』(1963年)や『ヴァージニア ウルフなんかこわくない』(1966年)では、情熱的で意志の強い人物を演じている。ノーマン パーキンソンは、ファッション写真やセレブリティポートレートに、斬新な構図を取り入れた先駆的な写真家。本作では、華やかで洗練された色彩が、テイラー特有の紫色の瞳を引き立てている。また、このヴィンテージプリントは反転して制作されている。
Given by Norman Parkinson, 1985

29

マイケル ケイン (1933-)

撮影 デヴィッド ベイリー
gelatin silver print, 1965

トレードマークの太い眼鏡とコックニー訛りで知られるマイケル ケインは、『アルフィー』(1966年)や『ミニミニ大作戦』(1969年)をはじめ、1960年代から70年代にかけて数々のヒット作に出演。この写真は、スパイスリラー『国際諜報局』で初めてハリー パーマーを演じた年に撮影された。別のカットは、1960年代ロンドンの流行を担った人々を捉えたデヴィッド ベイリーの写真集『Box of Pin-Ups』(1965年)にも掲載されている。真っ白な背景に躍動感のあるポーズを捉えたポートレートは、スウィング シックスティーズ(1960年代の英国文化を象徴するムーヴメント)を象徴するイメージとなっている。

30

ジェーン バーキン (1946-2023)

撮影 パトリック リッチフィールド
inkjet print, 1969

ロンドン生まれの俳優、歌手ジェーン バーキンは、1960年代の文化的な革命の中から登場し、『欲望』(1966年)などの映画に出演したほか、セルジュ ゲンズブルと共作したヒット曲「Je t'aime...moi non plus」(1969年)でも知られる。その後フランスへと移り、スターとしての地位を確立した。フランスのシャンティイで米国版『Vogue』誌のために撮影された本作では、時代を象徴する英国人デザイナーの一人、オジー クラークの服を身に着けている。社交界を撮影し、スウィング シックスティーズを記録した写真家パトリック リッチフィールドは、当時を彩った多くの重要人物を撮影している。

Given by Thomas Patrick John Anson, 5th Earl of Lichfield.

31

マーシャ ハント(1947-)

撮影 ホレス オヴェ
inkjet print, 1968

米国生まれの俳優マーシャ ハントは、1968年、ロンドンのウエストエンドで上演されたロックミュージカル『ヘアー』への出演で一躍脚光を浴びた。台詞はわずか二行だったが、その強烈な存在感とサイケデリックな宣伝ポスターで、カウンターカルチャーのアイコンとなった。英国における黒人映画の先駆者である監督で写真家のホレス オヴェは、黒人コミュニティの姿を記録した。この二重肖像は、力強いパフォーマーとしてのハントと、深い思索に沈む一人の女性という、二つの姿を写し出している。

32

シャーロット ランプリング(1946-)

撮影 ルイス モーリー
cibachrome print, 1963

魅惑的で複雑な人物を演じてきたシャーロット ランプリングは、ヨーロッパのアート系映画からメジャー作品まで幅広く出演してきた。モデルとしてキャリアを始めた彼女は、瞬く間にスウィングング シックスティーズを象徴する存在となった。写真家ルイス モーリーは、ストリートスナップの躍動感にシュルレアリスムの要素を加えたポートレートで、この時代の新たなアイコンたちを記録した。本作は17歳のランプリングを捉えた一枚で、彼女のモデルとしての出発点となった。
Given by Lewis Morley, 1997

33

イアン マッケラン(1939-)

撮影 ハリー ボーデン
gelatin silver print, 1997

英国を代表する俳優の一人、イアン マッケランは、シェイクスピア劇から大作映画シリーズまで、多彩なキャリアを築いてきた。映画『ロード オブ ザ リング』三部作に登場する賢明で強大な魔法使いガンダルフ役で広く知られるが、この写真ではそれとは対照的な、静かな佇まいを見せている。写真家ハリー ボーデンは、白い壁と黒いスーツの対比、そして繊細なトーンの重なりによって、その姿を際立たせている。カメラを見つめる視線には、確かな存在感が宿る。

34

ティルダ スウィントン(1960-)

撮影 デヴィッド トンプソン

gelatin silver print, 1992

実験映画をルーツに持つティルダ スウィントンは、役柄に応じて大胆に姿を変え、既成の枠を超える演技で知られる。この肖像が撮影された年、彼女はヴァージニア ウルフ原作の映画『オルランド』で、性別が変化する主人公を演じ、国際的な評価を得た。デヴィッド トンプソンは、自然光と繊細な色調、近接した構図によって、流動するアイデンティティへの関心を写し出し、被写体との強い結びつきが垣間見える一瞬を捉えている。

Given by David Thompson, 1993

35

クリスティン スコット トーマス(1960-)

撮影 アリスター モリソン

gelatin silver print, 1997

映画のワンシーンを思わせるこのポートレートは、クリスティン スコット トーマスが19歳で英国から移り住んだパリで撮影された。英仏両方の映画界で活躍する彼女は、『フォー ウェディング』(1994年)や『イングリッシュ ペイシェント』(1996年)などで見せた、繊細かつ幅広い演技によって高い評価を得ている。

37

キーラ ナイトレイ(1985-)

撮影 サラ ダン

gelatin silver print, 2003

キーラ ナイトレイは、コメディ映画『ベッカムに恋して』(2002年)で若い女性サッカー選手を演じ、ブレイクした。本作はその翌年、人気ロマンティック コメディ『ラブ アクチュアリー』と大ヒット映画シリーズ『パイレーツ オブ カリビアン』の両作に出演していた時期に撮影された。北米のモハベ砂漠で撮影されたこの写真では、風船が遊び心のあるシュールな趣を添えている。

38

ダニエル ラドクリフ (1989-)

撮影 エマ ハーディ
chromogenic print, 2006

11歳で『ハリー ポッターと賢者の石』(2001年)の少年魔法使いを演じ、一躍スターとなったダニエル ラドクリフ。シリーズ8作への出演後は、映画、演劇、テレビの分野で、型にはまらない役柄を追求してきた。エマ ハーディは、英国文化を形づくるティーンエイジャーたちを題材にしたシリーズとして、ロンドンのリッチモンド パークでこの繊細なポートレートを撮影した。若くして成し遂げた成功の背景にある葛藤と決意を表現しようとした作品である。

Purchased with support from the Teen Vogue and Make Your Mark campaigns, 2006

39

リズ アーメッド (1982-)

撮影 シャリフ ハムザ
pigment print, 2018

俳優、ラッパーのリズ アーメッドは、『フォー ライオンズ』(2010年)といったインディペンデント映画から、『ローク ワン』(2016年)などのハリウッド大作、さらに2枚のヒップホップ アルバムのリリースに至るまで、幅広く活躍してきた。自身の影響力を活かし、映画やテレビにおける多様性の欠如にも声を上げてきた。アイデンティティとカルチャーに関心を寄せる写真家シャリフ ハムザは、視線よりわずかに低い角度からアーメッドを捉えることで、ポートレートに自信と切迫感を与えている。頭を傾け、少し口を開いた姿は、今にも語り出しそうな印象を与える。

Given by Sharif Hamza, 2018

40

ケイト ブランシェット (1969-)

撮影 リネケ ダイクストラ
chromogenic print, 2007

舞台と映画の両方で存在感を発揮するオーストラリア生まれのケイト ブランシェットは、歴史映画『エリザベス』(1998年)でエリザベス1世を演じ、一躍注目を集めた。本作は、古典的な構図とポーズによって、スタジオ写真の伝統を想起させるが、多くのリネケ ダイクストラの作品と同様に、その魅力は削ぎ落とされた簡潔さにある。一見ニュートラルに見えるポーズや控えめなヘアメイクの背後には、身振りや表情のあらゆる要素を緻密にコントロールする俳優としての力が隠されている。

Purchased with help from Jane and Michael Wilson and Ellen Shapiro, 2017

41

エディ レッドメイン(1982-)

撮影 アリソン ジャクソン

chromogenic print, 2010

『ファンタスティック ビースト』シリーズ(2016-2022年)で知られるエディ レッドメインは、『博士と彼女のセオリー』(2014年)や『リリーのすべて』(2015年)などで見せた、変幻自在の演技で高く評価されてきた。写真家アリソン ジャクソンは、遊び心のあるセレブリティポートレートを通じて真実と虚構の境界を曖昧にすることで知られるが、本作では、レッドメインの音楽的な原点に目を向けている。彼は合唱団やミュージカルを通じて演技の道に入り、現在もピアノを演奏している。

Given by Alison Jackson, 2019

42

ジュード ロウ(1972-)

撮影 パオロ ロヴェルシ

pigment print, 2006

ジュード ロウは、『リプリー』(1999年)のような心理スリラーから、ファンタジー映画シリーズ『ファンタスティック ビースト』(2016-2022年)まで幅広い作品に出演している。本作では、謎めいた風景の中に佇む彼の姿と、彼方へと消えていく道が物語を想像させる。大判カメラを用いて夢幻的なイメージを生み出す、イタリアのファッション写真家パオロ ロヴェルシはこう語っている。「私はカメラの後ろではなく、被写体と向き合って立ちます。そうすることで、深いコミュニケーションが生まれるからです」

Given by Paolo Roversi, 2007

43

イドリス エルバ(1972-)

撮影 ジュリアン ブロード

gelatin silver print, 2010

2010年、英『The Daily Telegraph』紙の依頼で制作された本作は、イドリス エルバがBBCの犯罪スリラー番組『刑事ジョンルーサー』(2010-2019年)で主演の刑事役を初めて演じた年の作品であり、その役柄を決定づけた陰鬱で張り詰めた強さを映し出している。エルバの顔は一部が影に覆われ、乱れた空間が不安定な感覚を高めている。ジュリアン ブロードによるこのポートレートは、変貌の瀬戸際にいる俳優を捉え、高い評価をもたらした役柄の、苦悩に満ちたエネルギーを体現している。

44

ケイト ウィンスレット(1975-)

撮影 ロレンツォ アジウス
gelatin silver print, 1998

複雑で芯の強い女性を演じることで知られるケイト ウィンスレットは、ジェームズ
キャメロン監督の『タイタニック』(1997年)でローズ役を演じ、世界的なスターと
なった。当時、歴代最高の興行収入を記録した同作の成功後、ハリウッド大作から
距離を置き、『クイルズ』(2000年)や『エターナル サンシャイン』(2004年)などの
インディペンデント映画やドラマ作品を選んだ。『タイタニック』公開から1年足らず
で撮影されたロレンツォ アジウスのポートレートでは、物憂げなポーズと影の交錯
によって、内省的な一面が浮かび上がっている。
Given by Lorenzo Agius, 1998

45

ヒュー グラント(1960-)

撮影 ファーガス グリア
gelatin silver print, 1992

まっすぐな視線と、魅力的でありながらどこか無防備なポーズに、後に英国を代表
するロマンティックな主演俳優となるヒュー グラントの魅力が表れている。1990年
代から2000年代には、『フォー ウェディング』(1994年)、『ノッティングヒルの恋人』
(1999年)、『ブリジット ジョーンズの日記』(2001年)などの人気作品に出演。その
後は、よりドラマティックで複雑な役柄や、悪役にも挑み演技の幅を広げていった。
Given by the photographer, 2004

46

ダニエル クレイグ(1968-)

撮影 スピロス ポリティス
chromogenic print, 2004

秘密諜報員ジェームズ ボンド役で広く知られるダニエル クレイグは、『カジノ ロワ
イヤル』(2006年)を皮切りに、15年間で5本の『007』シリーズ作品に出演。この役
柄に、新たな感情の深みと脆さをもたらしたと評価されている。彼はボンド以外で
も、幅広いジャンルで一風変わった個性的な人物を演じてきた。本作では、彼の無
表情な顔が白紙のキャンバスのように、さまざまな役を演じる俳優としての可能性
を示唆し、抑えた色彩が、射貫くような青い瞳を際立たせている。

47

ベネディクトカンバーバッチ(1976-)

撮影 スペンサー マーフィー

chromogenic print, 2010

ベネディクトカンバーバッチは、『イミテーションゲーム』(2014年)の科学者アランチューリングから、『SHERLOCK』(2010-2017年)の名探偵シャーロックホームズまで、実在架空問わず英国の著名な人物を演じてきた。スペンサーマーフィーによるこの作品では、視線は画面の外へと向けられ、ニュートラルな背景と澄んだ光によって、その顔立ちに目が向く構成となっている。マーフィーは「表情の繊細な変化、警戒心がふっと解け、心がどこかへさまよう、その瞬間を撮るのが好きだ」と語っている。

48

トムヒドルストン(1981-)

撮影 スペンサー マーフィー

chromogenic print, 2014

トムヒドルストンが目に涙を浮かべながら、カメラを見つめている印象的な写真。本作は、シェイクスピアの悲劇『コリオレイナス』の主人公である、追放された英雄の強さと脆さを表現した一枚で、2014年の同作の上演に際して依頼された。スペンサーマーフィーは、人物を描く際に衣装や小道具に頼ることなく、この削ぎ落とされた肖像を通して、俳優が持つ表現力そのものに焦点を当てている。

49

ジュディデンチ(1934-)

撮影 ブライアン アダムス

chromogenic print, 2008

英国を代表する俳優の一人、ジュディデンチは、シェイクスピアの戯曲『ハムレット』におけるオフィーリアから、『007』シリーズの「M」役まで、数々の印象的な役を演じてきた。しかし本作では、衣装や小道具を伴わず、舞台を離れた素の姿が捉えられている。カナダ出身のロックミュージシャンで写真家でもあるブライアンアダムスは、第一線で活躍する女性クリエイターたちの功績を称えるシリーズ『モダンミューズ』の一環として、この肖像を制作した。

Given by Bryan Adams, 2008

50

ルース ネッガ(1982-)
撮影 ジャック デイヴィソン
photographic etching, 2016

映画、演劇、テレビと幅広く活躍するルース ネッガは、『ラビング 愛という名前のふたり』(2016年)での主演をはじめ、『マクベス』(2022年)などのシェイクスピア作品での演技で注目を集めた。米『The New York Times』紙の「Great Performers」特集のために制作された本作で、写真家ジャック デイヴィソンは、ネッガの姿を断片的なイメージへと変容させている。隠蔽と露出の間を移ろうこのポートレートは、さまざまな役柄を生きる彼女の演技を想起させる。金属板にインクを施すエッチングの技法によって、触れるような質感が生み出されている。
Given by Cob Gallery, 2025

51

ケイト モス(1974-)
撮影 コリーヌ デイ
gelatin silver print, 2006

ナショナル ポートレート ギャラリーが本作を制作依頼した当時、モデルのケイト モスと写真家コリーヌ デイは、すでに数十年来の友人だった。撮影についてデイは、「私はケイトに、何か真剣なテーマについて話をしようと提案しました。彼女が選んだテーマから本当の感情が垣間見え、その人柄を浮かび上がらせたのです」と語っている。複数のイメージから構成されるこのポートレートは、モスが公の場で見せる顔よりも、多面的に考える一人の人間であることを感じさせる。

SNAPSHOT

52

デヴィッド ボウイ(1947-2016)
撮影 鋤田 正義
inkjet print, 1980

40年にわたる協働を通じて、鋤田正義はボウイのヴィジュアルイメージを形づくるうえで重要な役割を果たした。鋤田は、アルバム『Heroes』(1977年)のジャケット写真を含め、音楽家として変貌するボウイを撮影してきた。二人の創作を特徴づける大胆なスタジオ ポートレートとは異なり、この作品では鋤田とボウイが京都で即興的な撮影を行っている。鋤田は次のように語っている。「周囲のほとんどの人は、彼に気が付かなかったので、普段より自由でいられたのかもしれない」

53

ミックジャガー(1943-) マドンナ(1958-) トニー カーティス(1925-2010)

撮影 ダフィド ジョーンズ

gelatin silver print, 1997

『Vanity Fair』誌主催の華やかなアカデミー賞パーティーで撮影されたひねりの効いた一枚。ローリング ストーンズのミック ジャガーが一人座る傍ら、俳優トニーカーティスは歌手マドンナの関心を引いている。同誌のフォトグラファーを長年務めたダフィド ジョーンズは、華やかなイベントを記録する中、さりげない風刺を込めた印象的な写真を数多く残した。初期のパーティーへの入場を許可された写真家三名うちの一人であり、控えめなドキュメンタリー的アプローチで、自然体で無防備な瞬間を捉えている。

Given by Dafydd Jones, 2009

54

スパイス ガールズ

撮影 ナイジェル シャフラン

inkjet print, 1997

1990年代、スパイス ガールズは「ガールパワー」という力強いスローガンを掲げ、ポップミュージック界において女性の力を後押しする象徴となった。1997年、ナイジェル シャフランは英『The Guardian』紙から依頼を受け、米国ツアー中のグループを撮影した。このカバー写真は、スケアリー、ジンジャー、ベイビー、ポッシュ、スポーティーの5人が、靴だけで誰なのかひと目でわかる一枚。前衛的フェミニスト作家、キャシー アッカーによるインタビュー記事には、「世界は彼女たちの足元に」という見出しが付けられた。

55

ヴィクトリア ベッカム(1974-) デヴィッド ベッカム(1975-)

撮影 ユルゲン テラー

chromogenic print, 1998

ユルゲン テラーが撮影した、スパイス ガールズのヴィクトリア ベッカムと、夫でサッカー選手のデヴィッド ベッカムの写真は、注目を集めるカップルとしては珍しく親密で静かなひと時を捉えている。マンチェスターのマルメゾン ホテルの廊下に横たわる二人を写した一枚で、大きなお腹のヴィクトリアは、デヴィッドの肩に頭を預けている。2016年、ヴィクトリアはこの撮影について、「デヴィッドと私が一日を一緒に過ごしていて、偶然そこに写真家がいた、というような自然な感じだった」と語っている。

Given by Juergen Teller, 2016

56

ウェールズ公妃ダイアナとエリザベス2世

インディア ヒックス, サラ=ジェーン ガズリー, クレメンタイン ハンブロ
撮影 パトリック リッチフィールド cibachrome print, 1981

社交界やファッション界で地位を築いた写真家で、女王エリザベス2世の親族でもあったパトリック リッチフィールドは、当時のウェールズ公夫妻の公式結婚写真を撮影するのにふさわしい立場にあり、王室との近しい距離から撮影することができた。幼いブライズメイドたちと会話するダイアナ妃を捉えたこのワンシーンは、式典の舞台裏を垣間見せてくれる。広く報道された、緻密に演出された結婚式のメディア報道とは対照的である。

57

オードリー ヘプバーン(1929-1993)

撮影 マーク ショー
gelatin silver print, 1954

『Life』誌の連載用に撮影されたマーク ショーによるオードリー ヘプバーンの舞台裏のポートレートは、スターの仕事現場を垣間見る貴重な機会となった。ここでは、ブロードウェイ公演『オンディーヌ』の公演中、楽屋の化粧台の前に座るヘプバーンを背後から撮影している。入念につくり上げられた宣伝写真とは対照的に、カメラではなく鏡に映る自分と向き合う彼女のプライベートな素顔を、親密な距離感で捉えている。

Given by the estate of Mark Shaw / Mark Shaw Photographic Archive, 2017

59

ハリー スタイルズ(1994-)

撮影 マーティン パー
inkjet print, 2024

大胆なファッション センスと、「Watermelon Sugar」(2019年)や「Aperture」(2026年)などのヒット曲で知られるハリー スタイルズは、ボーイバンド、ワンダイレクションのメンバーとして名声を得た後、2017年に初のソロアルバムを発表した。本作は、活動を休止していた2024年の夏、イタリアで過ごしたスタイルズを、ドキュメンタリー写真家マーティン パーが独自のスナップショットスタイルで撮影した一枚で、ビーチでくつろぐ自然体の姿を捉えている。もともと発表を目的としたものではなく、気負いのない自由な雰囲気を感じられる。